

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000142		
法人名	有限会社ワイズプランニング		
事業所名	グループホームこころ親園 (東西ユニット共通)		
所在地	324-0044 栃木県大田原市親園3003		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居しているご利用者様ひとりひとりが自宅で生活を送っているように、自分らしく安全・安心して穏やかに毎日を送ることが出来る支援を心掛けている。 当施設が、地域において認知症についての理解等に貢献できる情報の発信源になりたいと思う。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成25年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設4年目を迎えてホームの運営は着実に進んでおり、職員一人ひとりの意識やサービスの質の向上を目指した取り組みをしている。その一つとして、理念として掲げた「生命の尊厳を念頭に置き、豊かな老いと生きがい創り、共に感謝の心をもって社会に貢献すること」を、職員がより一層理解し実践に結びつけるために、毎月の目標を立て実施状況を日々チェックシートに記入して確認、反省している。また、毎日の朝礼時には職員が日替わりで理念に添ったスピーチを行い、表現力やプレゼンテーション能力が身につくよう取り組んでいる。このホームの特徴として、専任の看護師が配置され、協力医とも連携しながら入居者の日常の健康管理や傷病の手当てに努め、病気を持った入居者の食事の工夫や配慮、褥瘡予防のための清潔保持の助言や指導、痰の吸引の指導など、看護師ならではの知識と経験を発揮している。ホームでは地域貢献の一環として認知症サポーター養成講座の開催を企画しており、地域との交流も、地元の小中学生が訪問するなど徐々に広がりがつつある。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日に朝礼時にその日のリーダーの声掛けにより職員全員が「私たちの理念」の唱和を実施している。その後、理念に沿ったスピーチを行い理念の理解と実施に心掛けている。 「こころのカード」を利用し事業所独自の理念の実践も行っている。	「生命の尊厳を念頭に置き」、「豊かな老いと生きがい創り」、「共に感謝の心をもって」社会に貢献することを理念としている。職員は、毎月の目標を立て実施状況を日々チェックシートに記入して確認し、毎日の朝礼時には理念に添ったスピーチを行うなど理念の理解と実施に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動や行事に積極的に参加している。自治会の総会や文化祭、地域のコミュニティでもある「ほほえみセンター」などにも時々ご利用者様と共に参加しコミュニケーションを図っている。	地元の中学生在が5日間の体験学習で、さらに小学生も手品のボランティアで訪れるなど、地域との交流も徐々に広がりがつつある。また、認知症サポーター養成講座を地元向けに開催しており、キャラバンメイトの資格を取った職員が中心となって、事業所を知ってもらうことも兼ねて開催する計画があり、地域への情報発信にも努めている。	事業所は、地域において認知症の理解等に貢献できる情報の発信源になりたいと表明しており、今後とも事業所が地域になくしてはならない存在となることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と共催して認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方々に呼びかけ認知症への理解や知識を得る場の提供を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、市職員・地域の代表の方、ご利用者様のご家族様の参加を頂き、活動報告や回毎にテーマを設け協議を行うと共に、ご家族様のご意見もその場で伺っている。	運営推進会議には、利用者・家族、市の担当者や地域包括支援センターの職員、地域代表として自治会長、民生委員、駐在所が参加している。自治会長の紹介で中学生の体験学習が実現するなど、地域との交流に活かされている。	地域との関係では交流が活発化しており、引き続き運営推進会議での意見が活用されることを期待する。一方、利用者・家族の参加者が少ないことから、開催日時、会議内容等を工夫して参加しやすい状況をつくることも試みてほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な会議や研修に可能な範囲で参加して情報交換や相談を行っている。	市の担当者が関わり企画している事業所連絡協議会、ケアマネージャー協議会の研修等に参加し、市の協力を得て認知症サポーター養成講座も開催している。入居者の経済的な問題の対処で相談をするなど、相談しやすい良好な関係となっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に社内研修や社外研修に参加し、職員個々の理解や意識の向上に努めている。	職員は身体拘束をしない介護を研修会で学び、実践の場では抑制となる言葉使いにも気をつけている。管理者や職員同士で、朝、夕の申し送り時や、気がついた時にその都度注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部研修への参加で正しい理解に努めている。虐待への「自己チェック表」を活用し虐待の早期発見に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による勉強会を実施している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結以前より丁寧な説明を行い、疑問等にもその場で対応している。 利用中の入院時や解約時にもご家族様と面談し説明等を行いご納得・ご理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付窓口を統一化し、内容の分析と改善策等を検討し必要に応じて運営に反映させている。	家族に対しては、来所時に管理者から声を掛けコミュニケーションを取るようしており、職員への伝言でも管理者に伝えるよう情報の集約化を図っている。また、家族には毎月、入居者の様子を知らせる手紙に写真を添えた「親園だより」を送付して、家族との関係を密接に取るようになっている。入居者や家族から信頼を得られるよう、管理者は常に職員に言葉遣いや情報伝達に気をつけるよう指導している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員の全体会議を開催し意見を聞く場を設け、必要に応じて協議を行い、代表者・管理者は意見や提案を出来る限り運営に反映する姿勢を持ち続けている。	夜勤者を除く全員が参加する定例会を月一回夜の7時から開催し、行事の反省や事務連絡、さらには職員が企画し講師となる勉強会等を行う他、職員の意見の反映の場となっている。また、管理者等と職員の関係も良好なことから、個別での提案や相談なども出されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを設定し、職員個々の状況に応じて、その内容の説明と今後の課題等を提示し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員への情報提供を心がけている。 また、資格取得の希望等には随時相談にのり後押しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と交流を持ち職員同士の行き来や、その施設長に外部講師を依頼し勉強会を実施している。 その中で交流しながら、勉強会や研修会(外部講師の招聘)を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、担当ケアマネ等から情報を得て本人の立場に立った実調を心掛けている。 入所時には本人とのコミュニケーションを大切にしている。 また、過去のサービス利用状況なども確認し、本人の心配や入居に対しての不安や希望にも耳を傾けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込段階から施設見学や施設の情報を発信している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所アセスメントをし計画に活かしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心がけているが一時的な介護になりやすい。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設という閉ざされたイメージを払拭する為に小さな情報でもご家族様と共有出来るように、定期的にスタッフが生活の様子を手紙に書いたり、管理者が必要に応じて電話等で随時報告を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み馴染れた地域の友人・知人等の施設への面会、並びに自宅への電話は自由に出来る環境づくりをしている。	入居したことを知って知人が訪ねて来たり、夫を亡くした入居者を友人が慰めに訪問するなど、友人知人等の面会がある。友人と手紙のやりとりを行ったり、自宅への電話も自由にできるなど、様々な形でなじみの人との自由な関係が継続できるような環境をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの性格・趣味・相性等を把握し、ホール内での席やレクリエーションへの声掛けなどは、日々のスタッフ同士の情報を共有・考慮したうえでやっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域に根ざしたサービスの提供で総合的に関わり、退居後の経過等も時々電話等で確認するよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを充実することで心の変化等の把握に努めている。	入居前のアセスメントのみならず、入居後に分かること、変化することもあるので、現場の担当職員の見聞も聞いて思いや意向の把握に努めている。自己表現が困難な人に対しては、時間をかけて動作や言葉の端々から伝えたいことをつかむようにしたり、家族の話から推測したりしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントが充実するように、本人・家族と情報交換を密に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をスタッフ個々が行き、変化等を見逃さずに申し送り等で情報共有し、心身状態の把握に努めている。 特に、体調の変化は定時のバイタル測定等で早期発見に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成は、ご利用者様を担当割り、担当になったスタッフ中心でカンファレンスを実施している。本人の課題やケアについては会議を持った上で作成している。 ご家族様が訪問した折等に本人の希望等を伝え、併せてご家族様からの希望等も聞いている。	介護計画は、計画作成担当者がカンファレンスで、介護スタッフや看護師から計画作成に必要な情報を得て作成することが多い。入居後に状況が変化したり、入居者の特徴がわかるようになったり新たな発見も多いことから、再アセスメントに力を入れて計画作成に反映させている。また、看護師は、ケアの対応や服薬、病状に応じた食事の相談など、日頃から体調変化時の対応をしていることから、看護師ならではの知識と経験が計画作成に活かされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の情報は個別にファイリングし誰が見ても理解し易くすることで情報を共有している。(バイタル・食事摂取量・入浴・排泄・その他日中夜間の生活の様子等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の身体的・精神的な変化に合わせて必要に応じ、サービスの見直し・変更を心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の参加依頼することで、地域の方々との関わりを持ち、会議毎のテーマに沿ってその関係の方々に協力や指導を頂いている。 さらに、民生委員や傾聴ボランティアの方の積極的な協力・近所の方々の行事参加も確立しつつある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診はご家族様にお願ひし、連絡を密にして情報の共有を行い、突然の体調変化にはご家族様の了解を得て協力医の往診等を行っている。 必要に応じては管理者又は看護師の同行受診を行うことで、ご利用者様の日常の体調にかかわる情報を提供している。	かかりつけ医への通院は家族に任せているが、必要があれば管理者や看護師が同行して病状を説明することもある。通院先の病院で受けた検査データを持参してもらい、ホームで必要となる処置に役立てている。月2回、協力医がホームに往診に訪れるが、その際も看護師が普段の様子や健康状態を医師に説明し、意見を述べて診断に役立ててもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師と情報を共有し受診の際に備えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時の拡大カンファレンスに参加している。 退院後の介護計画書などを送付している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じてご家族様・主治医と話し合いチーム支援に取り組んでいる。	以前、家族の強い希望と協力医の支援によりホーム内で看取りを行った例があるが、現在は体制が整っていないため、積極的に看取りを実施するという方針は出していない。今後、看取り加算がとれるような医療との連携体制が整えば、ホームとして実施方針や実施マニュアルを策定し、本人、家族への説明を行い対応したいと考えている。	専任の看護師が配置されているので、今後取り組む終末期や看取りの看護・介護について、学びや話し合いを深めることが期待される。また、終末期の過ごし方について家族の希望等も聞くようにしておくことが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時や災害に備え避難訓練を全職員で実施し、地域の避難場所やルートの確認も行っている。 同時に自治会や近所の方にも声をかけ協力を得られるようお願いしている。	9月に夜間出火を想定し、職員が入居者に扮して、2名の職員が自動通報装置を押すこと、入居者を毛布にくるんで引っ張り出すロールプレイングの避難訓練を実施した。実際の火災の際には、近隣住民に知らせる暇もなく、まずは入居者を外へ避難させることを優先すると決めている。近くの駐在所から、冬になったのでストーブなどの火元に注意するようにとの声かけがあった。	火災の際には近隣住民には避難した入居者の見守りをお願いする必要があることや、災害の際には互いの協力が必要になることが想定されるので、今後とも近隣住民と良好な関係を築くことを期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チェックリストにて意識付けをしている。	入居者のプライバシーへの配慮事項として、トイレでの介助や居室でのおむつの取り替え時には必ず扉を閉めることを徹底するよう、折に触れ注意を促している。利用者が望む場合には入浴時の同性介助を行っている。馴れや気のゆるみを反省するために、職員トイレなどに「虐待の芽チェックリスト」(東京都社会福祉協議会編)を掲示して、自らを振り返るようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの押し付けにならないように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ一人ひとりがケアプランの理解に努め、日々の生活の中でご利用者様個人が尊重されるように心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の志向の把握に努め、更衣などは自分で決定してもらい、不都合のあるときのための支援に心掛けている。(必要以上の手出しはしない。)		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み・摂取可能な食物などをリサーチして、可能な限り摂取できる食卓を心掛けている。 時には、リクエストに応じて外食会も計画実行し、希望があればご利用者様のお小遣いで食物なども購入する。	3食とも食材宅配サービスを利用して職員が調理し提供している。ホームの畑でとれた野菜や差し入れの材料があるときには、おかずが1品増えることもある。刻み食やソフト食、とろみ食、食べられないものの代替食、カリウム除去食等、一人ひとりの状況に配慮した調理の工夫もしている。入居者が重度化しているため、一緒に調理することは難しくなっているが、皮むきや食後の食器拭き等は出来る人が参加している。外食や出張ラーメンの訪問など食を楽しむ機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配サービスの利用で栄養のバランスやメニューにバラエティを持たせている。 水分量の確保は、お茶の時間に限らず日に何度も提供している。(水分制限のある方はこの限りではない。) 必要に応じて、ソフト食や補助食なども考慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声掛けを、誘導の必要がある方は出来ないところだけの支援を行っている。 最終的な確認作業を行い、清潔の保持を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導し排泄パターンを把握し、「失敗」しないという自信を持っていただくように努めている。	入居当初、あまり意欲がなかった入居者を歩行ができるようにし、排泄の兆候を察知してトイレに誘導し、リハビリパンツ使用から布パンツに替えることができた例がある。パッドをしていても排泄パターンを把握して失敗ないようにトイレ誘導し、万が一失敗してもすぐさまシャワー浴で清潔を保持し、気持ちよさが持続するようにして、排泄の自立支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューは野菜が多く食物繊維の摂取が出来ている。便秘気味の方は声掛けにて散歩やレクリエーション・体操等取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的入浴は決めているが、本人の希望により午前・午後、曜日の変更は可能である。	ユニットにひとつずつ大きめの家庭用浴室が設置されているがリフト浴や機械浴はない。かなり重度の入居者でも職員が2人対応で入浴している。入浴を嫌がる入居者が興味を引くように浴室の写真を貼って、誘導し入浴できた例がある。遠赤外線の治療器で足を温めるほか、足浴を実施して清潔保持や熟睡できるように気を配っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、状況に応じた声掛けや誘導を行っている。 また、居室の温度設定に気を配るなど環境づくりにも心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬の項目を設け閲覧可能になっている。 通院等で服薬変更等がある場合にも職員全員で情報を共有している。 その後の様子観察も呼びかけている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を参考にして、草花の生育・趣味の手芸等が出来る環境を作るよう努めている。 また、材料購入も一緒に行き楽しんでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調に考慮し、スタッフとマンツーマンまたは少人数での施設周辺の散歩等を行っている。 少なくとも月に一度は、ドライブや外食会を計画実行している。しかしながら、ご家族様や地域の方々を巻き込んだ外出行事は実行できていない。	屋外レクリエーション担当職員2名が、入居者に季節を感じてもらうために毎月のようにドライブや外食、買い物計画を立てて外出の機会をつくっている。個別に希望を聞いてマンツーマンでドライブに誘うことや買い物に出かけることもある。買い物は限られた入居者になりがちであるので、多くの入居者が外出できるようにと、その日使用する卵を近所に買いに出かけるなどちょっとした工夫をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣い預かり、個々に財布を作り、買物を計画したりしている。 特に、週に一度の移動パン屋での買物については財布をご利用者様に手渡しご自身で購入して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ制限なく、随時手紙の投函を支援したり、電話はご自身で掛けていただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はレクリエーション等でご利用者様と一緒に季節感あふれる装飾を製作し環境を整えている。 刺激に対してはその都度対応している。	建物は中央部分に両ユニットのリビングダイニングがあり、その両翼に東西のユニットの居室が並んでいる造りとなっている。通常は、リビングのユニットの仕切りを開け放して使用している。リビングからは外のウッドデッキに出ることができ、眼前に広がる田園風景を眺めている入居者もいる。リビングや廊下には入居者の貼り絵や詩の作品が飾られている。テレビは音を大きくしないですむように文字放送に設定されていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置やソファ・椅子など必要に応じ変更し、また、畳コーナーには炬燵なども配置し、その日の気分で居場所を各々選べる環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人・ご家族様と相談し、新品ではなく使い慣れた家具等を用意して頂いている。その後は随時必要なものを本人の意思にてご家族様が調達してきている。	各居室には開口部の大きなクローゼットが造り付けられており、荷物が片付くので部屋全体が広く感じられる。各自ベッドとタンスなどを持ち込み、壁には写真や誕生会にプレゼントされた職員全員のメッセージ入りの切り絵が飾られている。シーズンによって、暑さ寒さを避けるために、職員と一緒に模様替えをする入居者もいる。扉が全ての居室で同じデザインであるため、造花や写真を付けて工夫された表札用のプレートが入りに掛けられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付けやバリアフリーにしたり、看板を設置することで、自力での移動が可能になり、自立に向けた生活が出来るような環境整備に努めている。		